

日本の“家”

随时代而变的家庭生活空间

现今日本的住宅情况

日本的住宅总数为 5025 万户，家庭总数为 4436 万户。5025 万户住宅中，约 58% 是单门独院式住宅，约 38% 是集体住宅。从建筑结构上看，约 64% 是用木材建造的房屋，约 33% 是钢筋混凝土建筑。每户住宅的居住面积和居室数量的全国平均分别为：约 88 平方米、4.7 个房间。另外，私有住宅比例约占 60%。

但是，在建筑方式、居住面积以及私有住宅的比例上，大城市和地方城市之间有很大的差距。比如：在东京，与单门独院式住宅相比集体住宅居多，约占总数的 67%；而就每户的居住面积而言，东京的平均最小约是 59 平方米，其次是大阪约是 67 平方米。与此相比，富山县最大约是 151 平方米，其次是秋田县约是 135 平方米。可见其差距之大。另外，大城市和地方城市私有住宅的比例也存在着很大的差距。东京最低约为 41%，其次是大阪约为 49%，而私有住宅比例最高的是富山县约为 80%，其次是秋田县约为 77%。由此可以说明，东京等大城市的地价高、人口密集，所以租用狭窄的集体住宅的人居多。如今，集体住宅越来越高层化，日本最高的集体住宅是正在建设的大阪的 54 层建

筑。(户数、建筑结构、居住面积均为 1988 年的数据)

从住宅看智慧

以往的住宅深受当地风土、气候以及文化的影响。例如在日本，人们为了在高温多湿的梅雨季节尽可能过得舒适一些，建筑多采用木材及“和纸(日本纸)”等天然材料，并悟出了以开关自如的隔扇及拉门等进行通风的建筑技巧。但最近，由于空调的普及，封闭度较高的建筑材料及建筑结构多了起来。尽管如此，依然能在各地看到人们应对特殊气候的各种技巧。例如在多雪地区，人们加大屋脊的坡度；而在台风频繁的冲绳，人们把屋脊建得低矮，并用灰浆把瓦固定在屋顶。

处于地震频发地带的日本，于 1981 年出台一部建筑基本法，规定此后的建筑物都要采用抗震结构。所谓抗震结构，是指能够经得住地震及强风等外力的作用所引起的晃动的建筑结构设计。特别是近年来，一种防震结构的建筑物备受关注。所谓防震结构，就是在建筑物的基础部分及地面与建筑物之间建造缓冲部分，以此吸收地震产生的能量，把强震转换成微震的结构设计。如今，20 层以上的集体住宅均采用防震结构。



神奈川県横浜市内の住宅区

日本住宅的面积单位

房间的面积一般用“~叠”榻榻米来表示。也就是用榻榻米的叠数(张数)来换算房间面积的大小。备有榻榻米的房间(和室)自不待言，铺设地板等没有榻榻米的洋室的面积也用“~叠”来表示。1“叠”的面积根据地区有所不同，基本上在 182 公分 × 91 公分左右。最近的集体住宅所采用的标准是，1“叠”大致相当于 174 公分 × 86 公分，与以往相比似乎小了很多。根据住宅的总面积，各房间的大小会稍有不同，但一般来讲，每个房间的面积在 4.5 ~ 6“叠”之间。因为起居间是家里人聚会的地方，设计时一般都要留出比其它房间宽敞的空间。此外，表示居住面积和占地面积时，与平方米并用的单位还有“坪”。1“坪”相当于 2“叠”榻榻米的面积，大约在 3.3 平方米左右。



兵库县姫路市内の民宅



东京都内的集体住宅



冲绳县伊是名岛上的民宅



《ひだまり》的每一期，都将通过图片和文章来介绍日本年轻人的生活以及当今日本文化为中心题材的《今日日本》，并介绍以《今日日本》为题材的教学设计，既可供教师教学时作参考，还可将《今日日本》贴在教室里，为学生了解日本提供帮助。

住宅随着时代变化

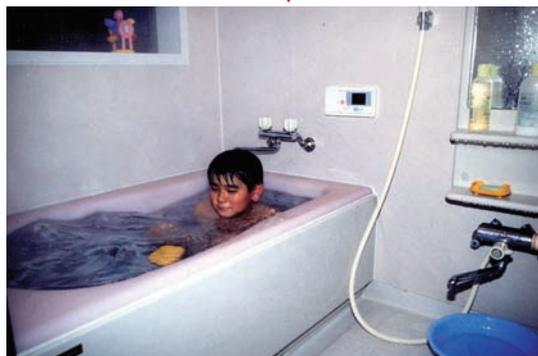
近年来，日本的住宅情况发生了很大变化。尤其在高度经济增长期开始的上世纪 50 年代，人口的集中给城市带来了住宅困难的问题。为了大量供给住宅，政府在 1955 年设立了“日本住宅公团”。从此，大型的集体住宅以城市为中心在日本各地拔地而起。到了 60 年代，民间企业也开始参与集体住宅的建设。此后的集体住宅不仅供租用，还按户出售。

高度经济增长还给日本带来小家庭化的骤然加速。很多年轻人离开父母移居到大城市的现象是造成小家庭化加速的原因之一。1955 年小家庭所占的比例与三代同堂的家庭大体相同，均为 45%，到了 80 年代，小家庭的比例增长到 60%，而三代同堂家庭的比例急剧下降到 16%。此后，小家庭的比例一直保持在 60% 左右，但三代同堂的家庭继续下降，到了 2002 年只剩下 10%，而单身家庭则有所增加，达到了 23%。因此，在城市里面向单身家庭的单间公寓的数量呈增加趋势，每套公寓的面积仅在 18 到 22 平方米之间。

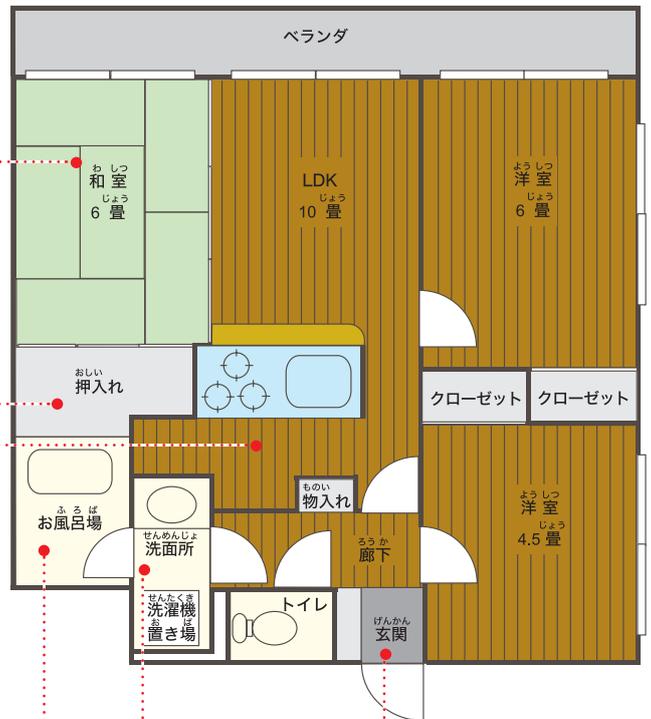
房间的功能和布局

集体住宅的出现也改变了人们对房间布局的观念。50 年代日本住宅公团建造的集体住宅，其房间的布局一般是分成“餐厅厨房”和 2 个卧室的 2DK。把餐厅和厨房设在同一个空间里的“餐厅厨房(DK)”的布局模式也是在这个时候登台，此后得以普及的。可以说，DK 的模式是将进餐及起居休息的空间与就寝的空间隔离开的布局，同时也是将父母与子女之间以及丈夫与妻子之间的私人空间彼此隔离开的一种布局。扩大 DK 的面积，使其兼有起居间功能的空间开始被称为 LDK。很多家庭为孩子设置单间的风潮也是从这个时候开始。据 Benesse Corporation 的调查显示，拥有自己房间的高中生占 77.2%，如果把与兄弟姐妹共用的情况也算在内，其比例高达 93%。

以前的日本住宅，房间和房间之间不是用墙壁而是用隔扇及拉门彼此隔开的。如果需要宽敞的空间就打开隔扇及拉门，如果需要几个小房间就将隔扇及拉门合上使用。此外，一个房间兼有多种功能。例如，白天摆上折叠餐桌就可以作餐厅，晚上收起餐桌铺上被子则可以作卧室



3LDK



使用。

近来有观点认为，按功能分设房间布局模式的出现给家庭关系带来很大影响。因此，人们主张应该重新考虑子女间和起居间的位置设定以及这些房间的作用等问题。有人指摘子女间阻碍了父母与子女之间的交流，但也有观点强烈主张子女间是培养孩子自立意识必要的场所。因此，避免子女间的孤立，把起居间设在子女间的必经之路上的房屋布局深受欢迎。此外，扩大起居间面积，使之成为住宅的中心和全家人聚会的场所等等能够深化家人关系的房屋布局在当前备受瞩目。



独用的子女间



姐妹共用的子女间



在自己的房间里埋头画漫画



在自己的房间里专心学习

家族とどう過ごす？

- ① 家族そろって夕食をとる。塾のある日はひとりで食べる。
- ② 祖母とテレビゲームで遊ぶ。
- ③ リビングルームで家族と話をする。
- ④ おやつを食べながら、父とひなたぼっこ。父は本を読んでいる。
- ⑤ 姉と楽しく話をする。姉は悩みをよく聞いてくれる。
- ⑥ 姉が髪をすいてくれている。姉の夢は美容師になることだ。
- ⑦ 母と夕食後の片付けをする。
- ⑧ 毎朝、学校に行く前に仏壇*の母の遺影に手を合わせて、心の中で話しかける。



* 佛壇：供奉佛像以及先祖灵牌、遗影的橱柜。一般还供奉有蜡烛、香、花、水果以及故人生前喜欢的东西。



ひだまり

第25号

2005年12月

フォーラム便り

去る11月30日、大連教育学院において、日本語教育学習研究センターの開所式が行われました。このところ、大連では教育行政主導で、日本語教育に関連する小中高校のカリキュラムや入試制度、教員の配置や評価基準などを見直す動きが出ています。これらの動きの特徴として、小中高校の日本語教育を一貫して扱おうとしていること、第二外国語としての日本語教育を視野に入れていること、優遇措置をとって日本語教育を保護・推進していこうとしていることの3点が挙げられます。同センターはそうした一連の政策をスムーズに施行に移すための研究・実施機関です。今後、同センターが日本語教師たちの拠り所となることが期待されます。

英語教育の隆盛は時代の自然の流れとはいえ、英語教育しか施さないというのも時代のニーズにあっているとは思えません。中国の初中等教育において、近い将来、第二外国語教育は確実に政策的に導入されることでしょうし、その際、隣国の言葉である日本語や韓国語・朝鮮語、ロシア語などが多く選択されるに違いありません。その日を楽しみにしつつ、現在、日本語教育に携わっている教師の皆さん、学習者の皆さんを、微力ながらお手伝いできればと思っています。

発行 財団法人国際文化フォーラム

編集人 中野佳代子

編集・制作 飯野典子／千葉美由紀
長江春子〒163-0726
日本国東京都新宿区西新宿 2-7-1
新宿第一生命ビル 26 階
財団法人国際文化フォーラム電話：81-3-5322-5211
ファックス：81-3-5322-5215
Eメール：hidamari@tjf.or.jp
URL：http://www.tjf.or.jp/

異文化理解を取り入れる授業を求めて

包華（阜新県蒙古高級中学）



外国語教育の目標は、文章を読み文法を理解させることだけでなく、相手の文化を理解し、お互いに協力し、共存できる人間を育成することだと思います。そこで、私は日本の文化や社会、日本人の考え方などを授業に取り入れるよう努力しています。そのためには、『ひだまり』を始め、視聴覚教材やマルチメディア教材などは大いに役立ちます。そして日本人との交流も生徒たちの日本語や日本文化への興味を高めるのに効果的です。そういった交流の機会を作るために、昨年は一年間で20名ぐらいの日本人を学校に呼びました。中でも一番印象深かったのは、5月に来校された華道の先生が、説明しながら美しく花を生け、実際に生け方を教えてくれたことです。6月には、日本人の先生と協力して、「日本の一日」をテーマにした文化祭を行いました。日本語科の生徒たちが茶道や日本舞踊を披露したり、日本の歌を発表したりして盛り上がりました。文化祭が終わったときの充実感、生徒達が喜んで姿を見た時の嬉しさは今でも忘れられません。

さて、私は日本で2004年4月から一年間国際交流員を務め、日本人と交流する機会を得ました。国際交流員の仕事は、通訳や翻訳、機関紙の編集、生活相談など色々ありましたが、一番楽しかったのは「中国語講座」です。日本語を教える時と同じように、授業には会話やゲーム、そして中国文化への理解を深めるような内容を取り入れました。受講生から「いつも楽しく、和やかな授業のおかげで、中国語にもっと興味を持ちました」とか「教わったことを基礎にもっと勉強して、中国に行きたいです」と言われた時は、講師をして本当に良かったと思いました。また、ある受講生は、「アジア人同士、お隣の国同士ずっと仲良く助け合っていけるよう努力したいと思います」というメッセージをくれました。それにはまず子供たちに、興味を持って他国の文化や歴史を学び、それらを受け入れることの大切さ、国境を取っ払って、相手を一人の人間として愛することの大切さを伝えていきたいです。中国人と日本人は育った土壌も文化も違います。だから、考え方が違うのは当たり前です。私はいつも生徒に考え方の違いから生じる偏見を捨てるよう言っています。そして、一つ一つの出会いを大切にして、お互いにもっと知っていくことが大事だと思います。いつ、どこで、誰に教えても、楽しい授業をする教師でありたいと思いますし、中国と日本の文化交流の架け橋になるように努力したいと思います。



カードやゲームなど、生徒が楽しんで参加できる活動を授業に取り入れている

面向初中的课堂教学活动设计：我的家

语言学习目标：

- 了解家庭住房空间以及位置的日语表达。
- 能够简明扼要地说明家庭住房的平面结构图。

句型：～に～があります、ここは～の部屋です

词汇：隣、左、右、台所、ダイニングルーム、リビングルーム、子ども部屋、和室、玄関、洗面所、(お)風呂場、押入れ、等等。

语言以外的学习目标：

- 了解日本的住宅情况。
- 对家里各房间的功能进行思考。
- 对平时不太在意的生活空间“家”有所认识。

活动时间：40～50分钟

教具：附录1“房屋平面结构图”、大幅图画纸

与本册教材相关的初高中《日语》(人民教育出版社)的内容有：7年级下册第5课(すみません、郵便局はどこですか)。

课前准备

- (1) 课前1周将《今日日本》贴在教室里。
- (2) 复印附录1中的结构图①，学生人手一份。让学生对照张贴在教室里的《今日日本》的房屋平面结构图和图片，将房间的名称填入结构图①中相对应的空白处，并将填好的结构图带到下次的课堂上来。
- (3) 教师将《今日日本》上的房屋平面结构图画在一张大幅图画纸上。

授课过程

1. 导入

- (1) 教师将事先准备好的结构图张贴在黑板上，向学生提出以下问题。

示范

- これは、何ですか。

- (2) 听完学生的回答后，教师对结构图进行简单说明。

示范

- これは、間取り図です。(間取り図を見ます。どんな部屋がありますか、どこにありますか、が分かります。)

提示

阐述结构图定义时可以使用母语。

2. 说明房间的位置及功能

- (1) 教师手指结构图上的各个房间，提问学生该房间的日语表达是什么。

示范

教师：ここは何ですか。

学生：そこは玄関です。

教师：ここは何ですか。

学生：そこは和室です。

- (2) 运用「～の隣(左、右)に～があります」举例说明房间的位置关系。

示范

- ここは玄関です。玄関を入ります。右に洋室があります。

- ここは洗面所です。その隣に浴室があります。

- (3) 接下来提问学生，让学生进行说明。

示范

(房间的名称)の隣に何がありますか。

提示

可根据需要对房间的功能进行补充说明(参照教学设计-3的资料)。

3. 了解房屋结构的标记方式

- (1) 教师在黑板上的结构图旁边写上“3LDK”并提问学生该标记代表什么?

示范

- これは、何ですか。

- (2) 接下来向学生说明该标记表示房间的数目和结构。同时还要做以下说明：没有起居间的房屋结构称作～DK、起居间和餐厅都没有的情况用～K来表示。

示范

これは、部屋の数と種類です。Lはリビングルーム(居間)です。Dはダイニングルーム(食堂)です。Kはキッチン(台所)です。最初の数字は、この3つの部屋以外の部屋の数です。お風呂場やトイレは数えません。

- (3) 接下来分发附录1中的结构图②③。再次让学生确认黑板上的结构图是3LDK结构，然后让学生回答结构图②③的房间结构如何表示。

示范

- これは、3LDKです。②はどう表しますか。③はどう表しますか。

答案

- ② 1K ③ 2DK

提示

根据学生的日语程度，(2)的说明和(3)的提问可以用母语进行。

4. 说明自家的房屋结构

- (1) 每人发一张稍大一点的白纸，让学生绘制自己家的结构图。此时，应将相关的词汇写在黑板上。

提示

如果有学生不愿意画自己家的结构图或者介绍自己的家人，可以让该学生描绘出其理想中的房屋布局和家人。

- (2) 画完结构图之后，把学生分成4～5人的小组，组内每个人分别展示自己的结构图，并使用句型「ここは～です」「～の隣(左、右)に～があります」加以说明。

- (3) 在小组发言时教师要在教室里巡回走动，听取学生的发言并提问以下问题，使学生对自己与家以及自己与家人的关系有所思考。

示范

- そこは誰の部屋ですか。
- その部屋に誰がいますか。
- その部屋で何をしますか。
- 家に帰ります。最初にどの部屋に行きますか。
- ～さんは、どの部屋がいちばん好きですか。

提示

通过各种提问能够扩展学生的话题，使学生对自己与家以及与家人的关系有所思考，所以教师可以多设一些问题或者让学生之间互相提问。同时，也可以将提问项目事先写在活动专用纸上，让学生彼此提问并写出答案。另外，根据学生的日语程度，提问时可使用母语。

4. 总结

最后，教师做以下发言，总结通过今天学习的句型能够表达的事情，以及通过“家”再次确认了自己与家人的关系。

示范

● みなさんの家を説明できるようになりました。家を見ると、家族と

のつながりが分かります。

【扩展学习】

也可以让学生使用母语讨论以下话题：房屋各部分结构的名称、房间的面积尺寸、结构布局与方位的关系、家人喜欢的房间、由于布局的差异所产生的家人关系的变化等等。

此稿是在荒川洋平先生（东京外国语大学副教授）和吉田佳世女士（东京外国语大学博士课程）执笔、并登载在本财团发行的日语教学简报英文版 TakarabakoNo.5 上的教学设计的基础上，进行了部分修改和重新编辑。

面向高中的课堂教学活动设计：家人之间的纽带

语言学习目标：

- 观察有关家庭意识的调查图表，简要地解释图表显示的数据内容。
- 通过读解和推测资料的内容，阐述自己的见解。

词汇：グラフ、全く、どちらかといえば、無回答、勤め人、起床在宅率、等等。

句型：～と答える、～と考える、～ということが分かる、～についての

语言以外的学习目标：

- 了解现代日本人的家庭观念或其中的一个侧面。
- 再次认识自己与父母及自己与家人的关系。

活动时间：40～50分钟

教具：《今日日本》、附录1的“房屋平面结构图”、“4种图表如此解读！”、附录2的4种图表（2-1：你优先考虑家人吗？/ 2-2：对你来说“家”是什么样的场所？/ 2-3：家庭成员分别在家里的活动时间比例 / 2-4：父母与子女之间的沟通在减少吗？）

与本期题材相关的初高中《日语》（人民教育出版社）的内容有：第1册第11课（サラリーマンの暮らし／コラム：日本の各式住房）、第12课（コラム：“昼”“ふすま”和“障子”）、第13课（コラム：“玄関”）、第3册第7课（コラム：日本の家庭）

□ 课前准备

- (1) 课前1周将《今日日本》张贴在教室里，告诉学生这是下周将要学习的内容，并指示学生事先阅读。
- (2) 复印附录2的4种图表（2-1、2-2、2-3、2-4），份数与活动小组的数量相同。此项活动每4人1组是理想的选择，如果班级有40名学生，则可以分成10个小组，因此，每种图表各准备10份为宜。此外，为了分组时方便，可用圆圈符号在4种图表上标记份数（如果是各10份，则给4种图表的每一种分别依次注上①到⑩的符号）。
- (3) 将附录1“4种图表如此解读！”按班级人数复印。

□ 授课过程

1. 导入

(1) 教师向全体学生依次提出以下3个问题，让学生一一回答。

示范

- 皆さん、『今日日本』を読みましたか。写真もたくさん載っていますね。写真に写っている人たちは家で何をしていますか。
- 写真の人たちは家族とどんな話をしていると思いますか。
- 皆さんは最近、ご両親や家族とどんな話をしましたか。最近ご両親や家族と一緒にしたことは何かありますか。

提示

让学生对刊登在《今日日本》上的图片进行思考或加以想象，以此展开话题，并逐渐地将话题内容引导到学生自身的家庭上来，从而使其意识到“家”对异国人来说也是重要的生活场所。

(2) 让学生回想与家人一起进行的一些活动，并将活动内容写在笔记本上。

示范

- ご両親や家族と最近話した内容や最近一緒にしたことなどを思い出して、ノートに書いてください。

(3) 教师询问学生在笔记本上写了什么内容，叫几位学生口头表述。

示范

- どんなことを書きましたか。では、誰か教えてください。

提示

通过把自己与家人之间的交流情况具体地写出来，明确认识自己与家人的关系，能够帮助学生对图表所示的日本的家庭情况形成具体的印象，成为深入理解日本家庭的开端。日语练习不是这项活动的目的，所以这里可以使用母语进行。

2. 解读图表活动

(1) 为开展下一项活动，教师进行引导性说明。

示范

- それでは、もう少し日本の家族について考えてみましょう。ここに、日本人の家族についての調査結果があります。日本人の「家庭」や「家族」に関する考え方が分かるグラフです。では今から皆さんに配ります。

(2) 教师将课前复印好的图表（2-1、2-2、2-3、2-4）分发给学生。

示范

- グラフは4種類あります。1人1種類だけ取ってください。

提示

为便于开展后面的活动，事先将4种图表的顺序完全打乱，并让学生领取图表时不要有选择，每个人依次从上面拿走一张。

(3) 学生观察拿在手中的图表，解读上面所表达的内容。

示范

- 皆さん、グラフが1種類だけありますね。では、まず、自分のグラ

フをよく見て、それはどんなグラフか、そのグラフから何が分かるか、自分で考えてみてください。

提示

注意不要让学生与其他同学对照，进行独自思考。

(4)教师提示学生如何进入小组活动。

示范

●どんなグラフが分かりましたね。では、次に、4人のグループを作りましょう。グラフは4種類ありますから、自分と違うグラフの人とグループになってもらいます。自分のグラフにある丸番号はグループの番号です。それぞれのグループがどこに集まるか、黒板に書きました。自分のグループの場所に行ってください。

提示

根据班级人数可确定4人或者5人为1个小组。在程序(3)学生进行思考的时候，教师将每个小组的座位位置写在黑板上。

板书示范：

- ① ② ③
- ④ ⑤
- ⑥ ⑦ ⑧
- ⑨ ⑩

(5)教师提示小组活动的内容。

示范

●はい、4人ずつのグループになりましたね。では、自分のグラフについてグループのほかの人に説明してください。

提示

根据需要，教师可以将说明图表时日语提示写在黑板上。

板书示范：

- このグラフは…についてのグラフです。
- ここから…ということがわかります。
- __代では約__割の人が…と答えました。
- …と考える人の割合が多い/少ないです。
- …と答えた人は__%でもっとも多い/少ないです。

(6)学生在小组内分别就自己手中的图表进行说明。

提示

为了便于理解，在这里可以一边说明一边将自己手中的图表展示给组内其他成员看。

(7)在每个人分别对自己手中的图表进行说明之后，分发附录1“4种图表如此解读！”，让学生将日语部分逐句朗读出来。

提示

通过朗读，能够确认句型、表达方式以及调查结果的内容。汉语翻译部分和专栏可作为参考。

3. 总结

(1)教师提示以下课题，让学生深化思考。

示范

●4つのグラフについて分かりましたね。では、今度は、グループのみんなで相談してください。その4つのグラフ全体から、日本の家族についてどんなことがわかりますか。それはどうしてだと思いますか。自分の家族と比較したりしながら、グループの中でいろいろ話し合ってみましょう。

提示

教师巡回听取各小组的讨论内容，并进一步帮助学生深化各自的思考。此项活动可以使用母语进行。

(2)各小组分别发表组内讨论过程中产生的观点，让全体学生共同了解。

提示

在这个程序中，如果学生能够发现虽然所解读的图表相同，但不同的小组观点却不尽一致，或者通过图表的读解开始思考中国的家庭关系以及父母与子女的关系，并进一步与自己的家庭进行比较，会使活动更加有意义。

【扩展学习】

可以让学生从“家人之间的纽带”“家人对我意味着什么”“我理想中的家人”中任选一题写一篇作文。

提示

因为有的学生不愿意提及自己的家人、或以“家人之间的纽带”为题目写作文有些牵就，所以最好多设定几个题目，让学生各自从中选择容易表达的一个。

执笔：有马淳一（国际交流基金日本語国际中心专任讲师）

资料：关于房间功能的补充说明

- ダイニング(ルーム)**：用餐的房间(饭厅)。一般情况下与厨房连接在一起或者与厨房设置在同一个房间里。
- リビング(ルーム)**：家人聚会的房间(起居室)。也有的家庭在这里学习。既有和室也有洋室。也叫“居間”。
- 風呂場/浴室**：放置浴缸和淋浴的地方合起来称之为“風呂場(洗浴室)”。一般来说，洗浴室、厕所、洗手间各自都是独立的房间。浴缸叫“湯船”，日本人喜欢在浴缸里放满热水，在里面泡澡。
- 玄関**：门厅，稍低于房屋的地板。日本人在这里脱鞋子。放鞋子的橱柜叫“下駄箱”或“靴箱”。
- 和室**：铺有榻榻米的房间。大多都有壁橱。
- 洋室**：铺有地板或地毯的房间。没有榻榻米的房间。
- 押入れ**：设置在和室里存放杂物的壁橱，安有日本纸做的拉门。被子以及坐垫、平时很少使用的物品以及过季的衣服、吸尘器等都放在这里。设在洋室里的壁橱叫“クローゼット”，一般采用木制

的折扇门。

- トイレ**：厕所。人们为了避开直接的表达方式(如“便所”)，曾给厕所起过很多名字。过去厕所曾被叫做“かわや”“はばかり”“手水”，后来被“トイレ”“お手洗い”所代替。最近还称“化粧室”。



左侧木门里是壁橱(洋室)



起居室(和室)

本期讨论的主题是“家”。我们常说人生有三分之一的时间是在睡眠中度过的，而多数人又都是在自己的家里度过这段时间。即使在睡眠以外的其他活动时间里，“家”对我们每个人来说也都是无可替代的场所。

30年前，人们将日本的住宅比喻为“鸽子笼”，时而将其作为玩笑的谈资，称“天堂般”的生活是吃中国的菜肴，“地狱般”的生活是住日本的房屋，日本住房状况之差可见一斑。但是，如果从正面加以理解，也许会产生不同的认识：日本的房屋在有限的物理空间中汇聚着多种充实的功能。

同饮食生活一样，起居生活对于中国的中学生来说，也是能够直接感受日本的异文化而令人感兴趣的话题。教师在教学活动的过程中，不要停留于表面的差异比较，而要使学生意识到隐现于本期主题中的日本的起居生活以及现代日本社会所存在的一些问题，并进一步使这次教学活动成为学生们思考中国的起居文化、以及对自身而言“家”与“家人”的存在意义等等诸如此类问题的契机。

首先，在“我的家”这项活动中，运用附录的“房屋平面结构图”学习标准的3LDK房屋平面结构时，教师应注意不要使学习活动局限于图表本身的学习，而要使学生能够想像和认识到它是日本的人们营造家庭生活的空间。为此，教师可在活动过程中适当提出以下问题，来帮助和引导学生加深理解：“父亲睡在哪里？”“母亲呢？”“那么，在哪里进餐呢？”“子女学习的场所呢？”等等。

在此项活动过程中，如果学生能有所发现，“哎？日本的房屋只有一个厕所”“喔！厕所和浴室是分设的”，或者由此开始思考其中的原因，营造出一个能够使学生大胆地去发现和思考的课堂则是非常理想的。

其次，在“家人之间的纽带”这项活动中，讨论的话题是关于家人和家庭的国民意识调查的数据总结资料，目的是了解现代日本的家庭观念的一个侧面。据资料显示：全家人聚集在一起活动的时间只在晚上8点到10点之间；无论哪个年龄段，感到最近父母与子女的沟通在减少的人都超过了半数，等等。乍一看好像日本的家庭都气氛沉重、合家不团圆。然而这并非全部事实。资料归资料，倾向归倾向，准确地理解的确很重要，但同时也要让学生们认识到，当然也有与之不同的家庭的存在，而且也许还不占少数。可以说，在以素质教育为目标的教学活动当中，注意培养学生辩证地观察事物的能力尤为重要。此外，在此项教学活动中，可以大量地运用图片，以便立体地把握日本的“家”以及家庭生活的情况。国际文化交流中心的网页(http://www.tjf.or.jp/photodatabank_j/)上收录了大量很生动的图片，而国际交流基金日语国际中心的“みんなの教材サイト-写真・イラスト”里(<http://momiji.jpif.go.jp/kyozai/Material/Photo/Index.php>)也登载了很多相关图片。均可供大家充分利用。

有马淳一
国际交流基金日语国际中心专任讲师

精心组织是完成任务的有力保证

日语教师在组织学生开展任务型的交际活动时，要像舞台总监那样精心做好各项组织工作，精心组织是完成任务的有力保证。

目前，大部分日语课的教学流程都是这样的：让学生听一遍录音→跟读→让学生对读→解释词义→训练句型→翻译→背诵→做作业。日语教学不能再沿用上面陈旧的套路，教师要勇于实践，在教育、教学方面有所创新，摸索新的课型、新的路子，这是我们日语教师的新课题。

任务型的交际性练习活动能充分调动全体学生的积极性，是对全体学生的尊重和关爱。只有全体学生的积极参与，才有可能逐步解决日语教育中长期存在的“大面积掉队”的问题。

教育、教学要组织全体学生参与完成任务型的交际活动或独立完成的活动。因此，开展活动时，要求把教学班的成员编成若干小组，完成根据语言材料设计好的诸多任务。

大量的任务是以小组的形式来完成的，精心编好小组是完成任务的前提。建议参考右表模式依据教学班的实际情况编组。

上课时，最好以小组为单位安排座位，避免教学秩序混乱。活动小组的组长可以通过民主选举产生。经常召开组长会议，听取他们的要求和建设，提出要求、布置任务。在一个阶段内，小组成员要相对固定，优势互补，总体水平保持一致，为公平竞争创造条件。任务完成后要作好记录，为评价积累数据和资料。小组和小组之间可以经常开展交流，为相互合作、相互尊重、相互关心、主动参与教学而增强各种能力。

在条件成熟的时候，可以总结经验、重新编组，以求学生有大

面积的交际活动。

初高中日语教材提供了许多生动的语言材料，为教师指导、组织学生开展各项活动创造了条件。每个语言材料都和一定的任务有关，熟悉、分析、理解、运用语言材料，设计切实可行的活动项目也是一项重要任务。

要求	理由
男女学生共同编组	培养学生和异性合作的能力，有利于青春期的教育。人数最好均衡。
语言能力强弱互补	有利于学生间的互相帮助，增强友谊，发扬团队合作精神。
不同性格互相照顾	性格外向型和性格内向型的学生相结合，有利于创造小组的活动气氛。
文体爱好互相感染	文体活动各有所长的学生相结合，有利于展开某些话题。
制作能力互相照应	有些任务需制作道具，制作能力强的学生可承担此工作并带动其他学生。
组织能力强弱搭配	组内有组织能力强的学生，可以协助教师组织学生完成任务。

张国强
中国教育学会外语教学专业委员会 秘书长、日语部部长